

## トラック輸送情報（平成24年8月分）

平成24年11月2日

総合政策局 情報政策課 交通統計室

担当：中倉 内線28721

直通：03-5253-8347

<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

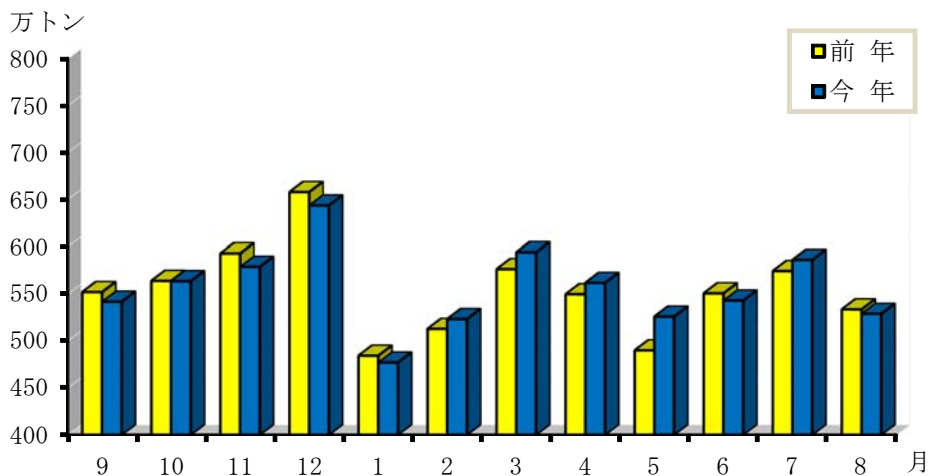
### 1. 特別積合せ貨物

#### (1) 本月の概況

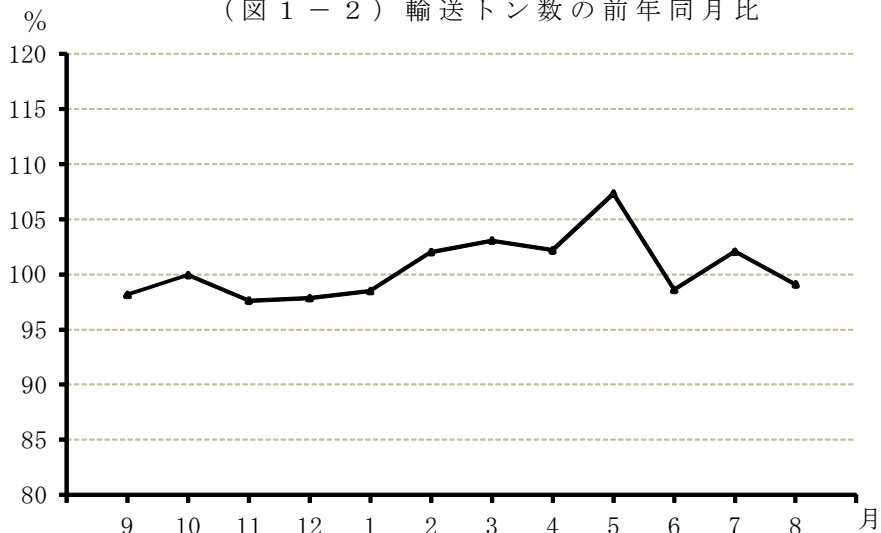
調査対象25社の本月の輸送量は、5,292,005トンで、前月と比べ総輸送量が約574千トン減少したため、前月比90.2%（季節調整済み98.7%）となり、前年同月との比較では、約47千トン減少したため、前年同月比99.1%の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

なお、平均稼働日数は22.5日で、前月と比べ0.9日減少し、前年同月との比較では、1.7日減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、235,200トンで、前月と比べ約15千トン減少したため、前月比93.8%となり、前年同月との比較では、約14千トン増加したため、前年同月比106.2%の実績であった。

（図1-1）輸送トン数の推移



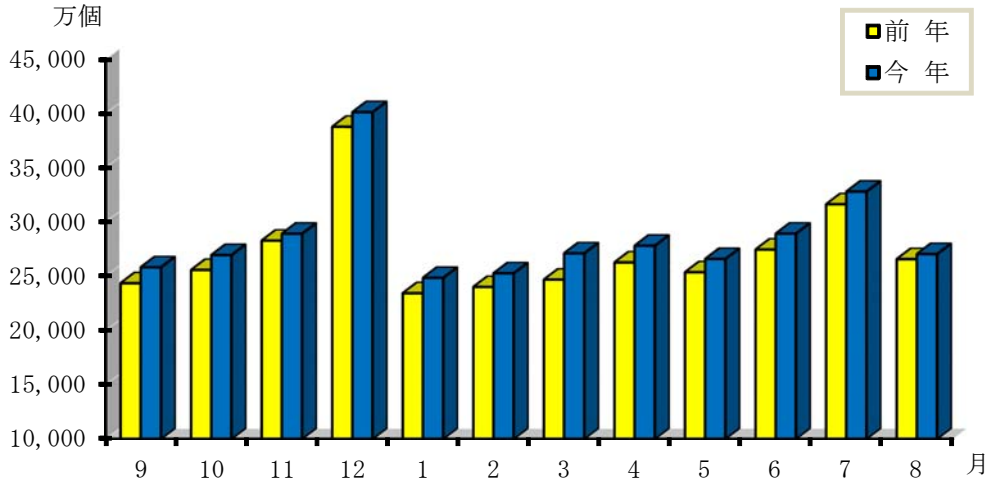
（図1-2）輸送トン数の前年同月比



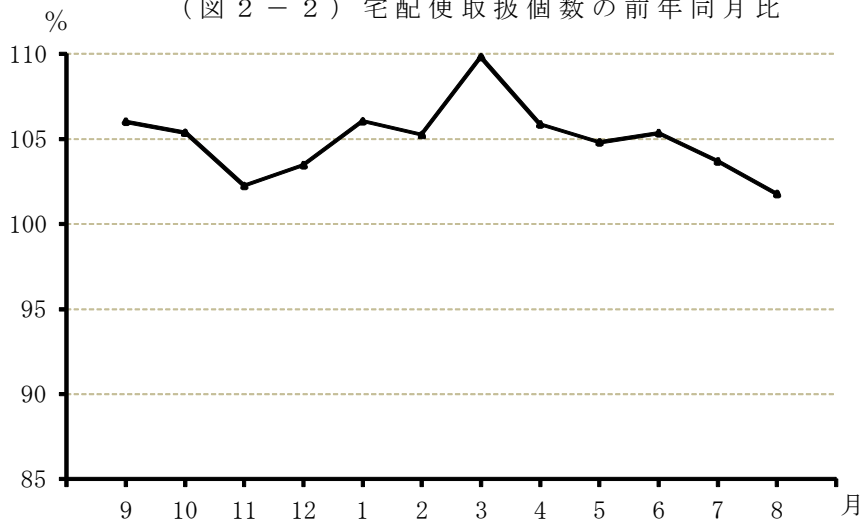
(2) 宅配便の概況

調査対象 17 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、270,554 千個で、前月と比べ 約 57,551 千個減少したため、前月比 82.5% (季節調整済み 100.4%) となり、前年同月との比較では、約 4,692 千個増加したため、前年同月比 101.8% の実績であった。(図 2-1、図 2-2 参照)

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 26 社(25 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社)の品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、すべての品目で、輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。減少要因としては、工場・生産地からの貨物減が「化学工業品」、「その他」を除く品目で見られたほか、季節的需要減による貨物減が「金属製品」、「機械」、「日用品」等で見られた。「機械」の主な減少地域は北陸信越、近畿で、「日用品」の主な減少地域は関東、北陸信越であった。

前年同月と比べると、「食料工業品」で増加したと回答する事業者があったものの、ほぼ全ての品目で、輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。工場・生産地からの貨物減が「金属製品」、「機械」、「繊維工業品」、「日用品」で、デパート・スーパーからの貨物減が「その他 (百貨店配送品)」で見られた。「機械」の主な減少地域は近畿、中国であった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 26社)

品目	増減事業者数			主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因		
	著 増	変 ら ず	著 減					
前 月 に 比 べ て	農水産品		11	5	2	果物	4	
	金属製品		14	7			4, 8	
	機 械		10	9	1	機械部品	北陸信越、近畿	4, 8
	化学工業品		13	9				
	繊維工業品		14	8			中部	4
	食料工業品	1	13	5	1	製造食品	東京、関東、北陸信越、中部地方、近畿地方	4
	日 用 品	1	11	10			関東、北陸信越	4, 8
	そ の 他	2	1	9	8	1	宅配便	8
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	1	14	2	1			
	金属製品	1	12	8		その他の金属製品	4	
	機 械	2	11	7			近畿、中国	4
	化学工業品	2	14	6				
	繊維工業品	1	16	4	1			4
	食料工業品	3	13	4		製造食品		
	日 用 品	2	12	8				4
	そ の 他	1	1	9	7	3	その他(百貨店配送品)	2

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。  
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

## 2. 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者(本月の回答事業者797社/調査対象事業者数1,066社)の輸送量は、前月比 97.8%、前年同月比 100.3%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	100.3 %	99.1 %	110.1 %	98.3 %	98.7 %	100.2 %	101.4 %	98.3 %	99.0 %	98.4 %	93.8 %	
前 月 比	97.8 %	104.6 %	98.8 %	94.4 %	94.1 %	95.6 %	93.2 %	92.5 %	98.0 %	96.4 %	100.1 %	

### (2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況 (各運輸局より回答のあったもの)

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比104.6%、対前年同月比99.1%であった。品目別では、季節的需要増等により「穀物」、「野菜・果物」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。また、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」、「その他の窯業品」が、工場・生産地からの貨物増等により「動植物性飼・肥料」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、輸出入による貨物減により「石炭」が、建設関連の需要減等により「砂利・砂・石材」が、工場・生産地からの貨物減により「紙・パルプ」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比98.8%、対前年同月比110.1%であった。品目別では、季節的需要増等により「野菜・果物」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。また、輸出入による貨物増等により「動植物性飼・肥料」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減等により「食料工業品」、「金属製品」、「その他の製造工業品」が、建設関連の需要減等により「セメント」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降については増加が予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比94.4%、対前年同月比98.3%であった。品目別では、商社・問屋からの貨物増により「紙・パルプ」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降については減少傾向が予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比94.1%、対前年同月比98.7%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増等により「揮発油」が、季節的需要増等により「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減等により「鉄鋼」、「金属製品」の輸送量が減少したとする事業者があった。今後の輸送の見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比95.6%、対前年同月比100.2%であった。品目別では、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減等により「機械」、「その他の窯業品」が、デパート・スーパーからの貨物減により「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。次月及び以降ともほぼ横ばいが予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比93.2%、対前年同月比101.4%であった。品目別では、デパート・スーパーからの貨物増等により「食料工業品」が、工場・生産地からの貨物増により「化学肥料」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減等により「金属製品」が、輸出入による貨物減等により「機械」が、季節的需要減等により「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともほぼ横ばいが予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前月比92.5%、対前年同月比98.3%であった。品目別では、天候の影響や季節的需要増等により「食料工業品」、「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった、また、季節的需要増等により「穀物」、「その他の石油製品」が、建設関連の需要増により「その他のくずもの」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減等により「砂利・砂・石材」、「機械」が、工場・生産地からの貨物減等により「金属製品」、「その他の窯業品」が、季節的需要減等により「野菜・果物」、「工業用非金属鉱物」等の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比98.0%、対前年同月比99.0%であった。品目別では、季節的需要増により「野菜・果物」の輸送量が増加したとする事業者があった。一方、季節的需要減により「その他の農産品」が、工場・生産地からの貨物減等により「工業用非金属鉱物」、「鉄鋼」、「非鉄金属」、「金属製品」、「機械」、「その他の窯業品」の輸送量が減少したとする事業者が多かった。また、デパート・スーパーからの貨物減や季節的需要減により「食料工業品」の輸送量が減少したとする事業者が多かった。今後の輸送見通しについては、次月は減少傾向、以降についてはほぼ横ばいが予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比96.4%、対前年同月比98.4%であった。品目別では、季節的需要増等により「野菜・果物」、「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。一方、工場・生産地からの貨物減等により「野菜・果物」、「食料工業品」、「日用品」が、建設関連の需要減等により「砂利・砂・石材」、「セメント」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比100.1%、対前年同月比93.8%であった。品目別では、輸出入による貨物増により「木材」が、倉庫への入庫増により「鉄鋼」が、建設関連の需要増により「機械」が、商社・問屋からの貨物増により「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減等により「金属製品」、「輸送用容器」が、商社・問屋からの貨物減により「紙・パルプ」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送の見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降については増加傾向が予想される。</p>

## (3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
1. 穀物	増	5	1					2	1	1		10
	減	1	1						1			3
2. 野菜・果物	増	5	6		1			1	2	4		19
	減		1				1	3	1	6		12
3. その他の農産品	増		1					1				2
	減	1					1		3	1		6
4. 畜産品	増											
	減						1	1	1	1		4
5. 水産品	増	2	1					1		2		6
	減	2	1							1		4
6. 木材	増	1						1	1	1	1	5
	減	1			1		1			3		6
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増											
	減	2						1				3
9. 金属鉱物	増					1						1
	減		1			1		1				3
10. 砂利・砂・石材	増	6	1			1		1				9
	減	7	1					6	1	3		18
11. 工業用非金属鉱物	増	1										1
	減	1	1					2	2	1		7
12. 鉄鋼	増		1					1		3	1	6
	減			1	2			2	3	3		11
13. 非鉄金属	増									1		1
	減		1				1	1	2	1		6
14. 金属製品	増	1				1	1			3		6
	減		2	1	3	1	2	6	2	3	2	22
15. 機械	増	1		1	1	1	1	1	1	3	1	11
	減					4	4	3	4	2		17
16. セメント	増	1	1			1		1		1		5
	減	2	2			2		2		4		12
17. その他の窯業品	増	2								1		3
	減				1	1		2	3			7

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
18.揮 発 油	増				2			1				3
	減								1			1
19.その他の石油製品	増	2			1			2				5
	減	2								1		3
20.コークス・ その他の石炭製品	増							1				1
	減											
21.化 学 薬 品	増								1	1		2
	減							1	1			2
22.化 学 肥 料	増	1					1					2
	減	1			1					1		3
23.その他の化学工業品	増							1				1
	減		1					4	1	1		7
24.紙 ・ パ ル プ	増			1				1	1	1		4
	減	2	1				1	1	1	1	1	8
25.織 維 工 業 品	増								1			1
	減		1		1							2
26.食 料 工 業 品	増	2	1		3		4	4		8		22
	減	1	6			1	4	2	5	5		24
27.日 用 品	増	1					1	4			1	7
	減	1		1	1		1		1	5		10
28.その他の製造工業品	増								1	1		2
	減		2			1			1	2	1	7
29.金 属 く ず	増											
	減										1	1
30.その他のくずもの	増							2				2
	減								1			1
31.動植物性飼・肥料	増	3	2	1					1	1		8
	減	1	1	1						2		5
32.廃 棄 物	増		1					2		1		4
	減		1					1				2
33.輸 送 用 容 器	増								1			1
	減									1	1	2
34.取 り 合 せ 品	増		1					1		2	1	5
	減							4		1		5
35.そ の 他	増						2			3		5
	減	1	1	1	4		1	2	1	2	1	14